

中堅・中小企業のための広報PR——

第12回 プロカメラマンに聞く！「写真撮影のポイント」



株式会社アネティ 代表取締役 なかむら あきこ 仲村 明子

インターネットやデジタルデバイスの発達により、マスコミを経由する方法以外にも、自社メディアやSNSを通じて直接広報PRができる時代になりました。広報PRは、ステークホルダーの共感や信頼を得て、売上拡大や人材獲得につなげる大変有効な活動です。このコラムでは、中堅・中小企業の皆さまが広報PRを身近に感じ、すぐにでも着手していただけるよう、考え方や方法についてわかりやすく解説していきます。

近年、デジタルカメラやスマホ内蔵カメラの性能が劇的にアップし、誰もが簡単に一定レベルの写真を撮影することが可能になりました。メディアの取材でプロのカメラマンを同行せず記者やライターが自分で撮影するケースや、自社HPや社内報に載せる写真を広報担当者が撮影する機会も増えてきました。そんなとき、広報担当者が写真撮影のポイントを知っておくことで、ぐんと写真のクオリティをアップさせることができます。

そこで今回は、経営者ポートレイトを得意とするプロカメラマンの善本喜一郎氏にインタビューし、写真撮影時のポイントをまとめました。ぜひ日々の広報活動にお役立ていただければと思います。

1. 撮影の環境

(1) 撮影する部屋は、できるだけ直射日光が入らない部屋を選択します。南向きより、北向きの拡散した光が入る部屋の方が写真は綺麗に撮れます。強い

光が入る場合は、被写体に当たらないようブラインドなどで調整しましょう。

(2) 部屋の電気は、天候にかかわらず、点けずに窓から入ってくる自然光のみで撮影するのがいいです。一つの光源（自然の光）で撮影するのが綺麗に撮るポイントです。夜の場合は、白熱灯のコントラストの強い光より蛍光灯の拡散した光のみで撮影するのがいいですね。

(3) 背景や手元には余計なものが写らないようにします。目立つ絵画や額は外し、観葉植物なども移動します。ただし、会社のストーリーを表すものやロゴマークなどは、あえて入れることもあります。

2. 撮影機器

(1) デジタルカメラなら、コンパクトカメラでISO3200※ぐらい、一眼レフでISO6400ぐらいあれば、暗い部屋でも十分にきれいな写真が撮れます。

(※ ISO とは：デジタルカメラが光を捉える能力を表す値)

(2) 初心者はストロボなどの照明機材に頼らない方がいいです。人物撮影は被写体とカメラマンの関係性が写りますが、機材に頼ろうとすると、被写体を見ずに道具に気を取られてしまいます。

3. 撮影のコツ

(1) 実際の誌面、Webでの使用サイズを確認してから撮影します。

会議室比較画像



強い光が入る部屋はブラインドで調整



直射日光が入る部屋は撮影に向かない

(2) 黙って真正面を向くと自然な写真になりません。別の人と話しながら撮った方が、カメラを意識せず自然な表情になります。

(3) 両手を広げて話すなど、動きのあるカットを撮るのはプロでも難しいものです。初中級者は話を聞いているところ、笑顔で答えているところなど、動きが少ない場面の方が撮りやすいでしょう。

(4) 感情を司るのは右脳で、その影響は身体の左側に出ると言われています。写真でも9割の人は左側の方がよい表情の写真になるので、話しているシーンなどは被写体に向かって右側に回り込んで撮ります。

(5) レンズを向ける角度で印象が変わります。基本は被写体の目の位置でニュートラルに撮ります。

(6) 視線と顔の向きは合わせます。目だけ横を見ると不自然です。アゴの角度にも気をつけましょう。

(7) 会社のロゴマークなどと一緒に撮影する場合は、ロゴが目と同じか少し下ぐらいになるように撮るとバランスがいいです。

(8) 座った時の手は、指を組まずに揃えて指先を重ねるのがソフトな印象です。また、手を重ねず少し開き気味でテーブルに軽く乗せると、より熱心に話を聞いている感じが伝わります。

▶立って撮影する場合

(9) 立った時の手は、置き方のちょっとした違いで印象が変わります。顔の表情とのバランス、打ち出したいイメージによって考える必要があります。通常は自然にまっすぐに下ろし、掌は軽く握ります。

(10) 少し胸を張ると服も綺麗に見えますし、手が安定して自信がみなぎります。逆に猫背になると腕がぶらぶらして安定しません。身体の姿勢が顔の表情にも影響します。

(11) 接客業などでは身体の前で手先を重ねたり、経営者や講師業など自信を表したいときは胸で腕を組んだりすることもあります。

4. 写真の選び方

(1) 写真を誰に見せるのか、その相手にとってどう見えるのかがいいのかを考えて選びます。

(2) 同じ社長でも、取引先や投資家が見るページに



写真家

善本 喜一郎氏

- フォトスタジオ KIPSY 代表 <http://www.kipsy.jp/>
- 株式会社 ヨシモト 代表取締役
- APA 公益社団法人日本広告写真家協会 業務執行理事 副会長
- 宣伝会議「編集・ライター養成講座」講師
- 宣伝会議「フォトディレクション基礎講座」講師
- 事業構想大学院大学 講師

掲載する顔と、新卒採用のページに掲載する顔は、変わってくるはずですが、ターゲットを定めたイメージ戦略が重要です。

(3) 写真のよさは、比較しないとわかりません。必ず複数枚撮影し、比較検討して選ぶようにしてください。



いかがでしたか？「写真撮影のポイント」がつかめたでしょうか？最後に私からは、広報担当者として撮影に同席する場合にすべき気遣いについてご紹介します。

● 櫛、脂取り紙、エチケットブラシなどを準備し、撮影中ヘアスタイルが乱れたり、顔がテカったり、服のほこりが目立ったりしないよう注意します。

● ネクタイやアクセサリが曲がっていないかも常にチェックします。

● ジャケットの前がだらしなく開いていないか、ポケットのふたが両側出ているか、ポケットの形が崩れていないかなども確認します。ポケットが膨らんでしまっていたら、中のものは全部出してもらいましょう。

● 座ったときに服が浮いたりしわが寄ったりしないよう、襟や袖なども整えます。

「え、ここまでやるの？」と感じた方もいらっしゃるかもしれませんが、きちんと気遣ったかどうかで、写真の出来栄がかなり違ってきます。スタイリストになったつもりで、ぜひやってみてください。